

【発表概要】

アルツハイマー病協会国際会議2023

Correlations of p-tau217, p-tau181 and tau levels between CSF and plasma that are measured by fully automated immunoassay platform

発表者	<p>松本 和也<sup>1</sup>、村上 駿<sup>1</sup>、森 飛鳥<sup>2</sup>、荒井 菜里<sup>2</sup>、石木 健吾<sup>1</sup>、Gupta Ishita<sup>1</sup>、渡部 俊介<sup>3</sup>、山下 和人<sup>1</sup>、石本 規<sup>2</sup>、黒崎 雅恵<sup>2</sup>、三浦 雅央<sup>1</sup>、岩永 茂樹<sup>4</sup>、佐藤 利幸<sup>1</sup></p> <p><sup>1</sup>シスメックス株式会社 中央研究所 <sup>2</sup>シスメックス株式会社 診断薬エンジニアリング本部 <sup>3</sup>シスメックス株式会社 テクノロジーイノベーション本部 <sup>4</sup>シスメックス株式会社 技術戦略本部</p>
発表概要	<p><b>背景</b></p> <p>アルツハイマー型認知症（AD）の層別化手法として、脳脊髄液（CSF）中のバイオマーカーによる判定法が提唱されている。層別化を広く普及させるためには、検体採取が容易な血液中のバイオマーカーによる判定法の確立が望ましい。そのためには、CSF中のバイオマーカー濃度と同様に変動するような血液中のバイオマーカー測定法が必要である。そこで我々は、CSF濃度と良好な相関を示す血液中バイオマーカーの測定法を開発してきた。今回は血漿中のリン酸化タウ217（p-tau217）およびリン酸化タウ181（p-tau181）、tauの免疫測定試薬について、各バイオマーカーの血液中濃度とCSF中濃度の相関を評価した結果を報告する。</p> <p><b>方法</b></p> <p>p-tau217、p-tau181およびtauは、全自動免疫測定装置 HISCL<sup>TM</sup>-5000を用いて測定した。各試薬の分析性能を評価し、検体中の各バイオマーカーを定量可能であるかを確認した。続いて、臨床的に認知機能正常（CN）、軽度認知障害（MCI）およびADと診断された患者の血漿検体およびCSF検体を測定し、同一患者の検体で定量値を比較して相関を評価した。</p>

発表概要	<p><b>結果</b></p> <p>開発したp-tau217、p-tau181、およびtau免疫測定試薬は、検体中のバイオマーカーを測定するのに十分な定量性能を示した。血漿およびCSF中の濃度を比較した結果、全ての試薬で良好な相関が認められた。また、血漿中の濃度分布を比較した結果、全ての試薬においてCN群とAD群で有意な差が認められた。</p> <p><b>結論</b></p> <p>開発したp-tau217、p-tau181およびtau免疫測定試薬で測定した血漿中のバイオマーカー濃度は、CSFの状態を反映している可能性が示された。このような血液バイオマーカーにより、ADの病理進行を評価できることが期待される。</p>
セッション	Developing Topics: Biomarkers P2-16